

高年齢労働者の活躍促進のための 安全衛生対策

— 先進企業の取組事例集 —

平成 29 年 3 月

中央労働災害防止協会

事例5 社会福祉法人 中心会

<ポイント>

- いわゆる「持ち上げない介護」について、介護労働者が体で覚えて定着するまで繰り返し研修・指導を行うことにより、腰痛防止を図っている。

1 法人概要（図表5-1）

社会福祉法人中心会は、神奈川県海老名市を中心として、介護福祉施設の運営、デイケアサービスの提供、児童養護施設の運営などを行っている社会福祉法人である。

2 高齢労働者の安全や健康確保についての考え方

年齢のいかんにかかわらず、安全や健康が確保される職場づくりに努めており、従業員の約4割が50歳以上であることから、結果的に、従業員全体の安全や健康を確保するための取組は、高齢労働者の安全や健康を確保するための取組につながっている。

3 高齢労働者の安全や健康確保のための具体的な対策

(1) いわゆる「持ち上げない介護」

介護を受ける利用者の負担を軽減するために、いわゆる「持ち上げ介護」は行わないようにしており、スライディングシートやスライディングボードを用いて、人間の自然な動きを重視した介護技術を導入している（いわゆる「持ち上げない介護」（図表5-2））。

スライディングシートは、ツルツルした素材でできているシートでこれを寝ている人の下に敷けば、力を入れることなく、寝ている位置を上下・左右などに動かすことができる。また、スライディングボードは、ボード上でお尻を滑らせることにより、力を入れることなくベッドと車椅子などの移乗をすることができる。これを活用することで、利用者の身体的な負担は軽減され、結果として、職業病とも言われる職員の腰痛も減少している。

これまでの取組を振り返ると、10年近く前に介護が原因で腰痛になりかけたというヒヤリハット事例があった。これをきっかけにボディメカニクスの観点からの介護技術を身につけてもらえるように職員に対する研修を開始した（研修風景：図表5-3）。それ以降、人間の自然の動きはどのようなものかを理解した上での自分の身を守るための介護は、利用者の自立支援のための介護にもつながっているとの考え方のもとに、現在に至るまで進めてきている。

具体的に、研修の内容を見てみると、新規採用者に対しては、3月に新任研修を実施して、自己流の介護にならないように指導している。その後も、3か月に1回程度、自己流の介護になっていないかどうか研修を行うことによりチェックしている。自己

流になっている者に対しては、その都度、是正指導を行っている。また、指導者はチェックシートを用いて後輩のチェックを行っているが、的確なチェックが行えるように指導者研修を実施している。一方、職員の方でも、施設が行う研修のほかにも、自主練習を繰り返し行うとともに、さらに、3か月ごとに、自己流になりがちな技術を研修で軌道修正してもらうことにより、「持ち上げない介護」の介護技術を定着させている。

「野球の素振りと同様に、基本が大切で何度も何度も繰り返すことにより、本人が体で基本を覚え込むことができるようになるまでやっている。このような取組を進めることにより、腰痛になった職員は明らかに減少してきた。介護であざができた、皮膚剥離を起こしたという利用者も減ってきている。しかしながら、それでも、自己流の介護が直らない職員も中には見られ、これが原因で、たまに腰痛になる者も未だにゼロになるには至っていない。」とのことであった。

現在、この中心会の介護技術は、「人の力のみで抱き上げない介護・看護」を推進する神奈川県「神奈川らくらく介護宣言」のパンフレットにおいて介護技術の取組事例として紹介されるに至っている（図表5-4）。

（2）健康診断

高年齢になってくると、生活習慣病等の発症率も高くなってくるので、労働安全衛生法に基づく健診項目に加えて、生活習慣病関連の項目も加えて健康診断を実施している。

また、人間ドックも3～4万円の実費がかかるが、希望者に対しては、全額法人の費用負担により実施している。

さらに、パート労働者については、労働時間が正規職員の3/4未満の労働者も健康診断の対象者に加えて実施している。

（3）夜勤対応

夜勤のない勤務を希望する正規社員は、子供の世話をする必要のある若い職員に比較的多く見られ、希望者には個別対応をしているが、高年齢になるに伴って、体力的に夜勤が難しくなってきた職員に対しても同様に個別対応を行っている。

（4）その他

施設内には、様々な業務があることから、業務の種類ごとに各種マニュアルを整備することにより、利用者に的確なサービスを提供できるようにすることが、同時に、労働災害の防止にもつながるのではないかと考えている。

4 今後の課題

現代の若い職員は、現代の高年齢者がかつて若かった時代と比べて、運動能力が低いとのデータもあることから、将来、現代の若い職員が高齢化した時に、どのような働き

方をしてもらうのか不透明な部分があり、今後の課題であるとのことであった。

法人概要

1 企業の概要

(平成28年10月1日現在)

企業名	社会福祉法人 中心会
本社所在地	神奈川県老名市
業種	社会福祉事業(介護保険事業、児童養護施設等)
主な業務内容	介護保険事業他老人施設での介護業務 児童養護施設での保育業務
従業員数	426人
平均年齢	45.8歳
定年年齢	60人
継続雇用制度の概要	継続雇用の期間は1年を単位とする。ただし、引き続き雇用を希望する場合は満65歳に達する日の属する年度の末日までを限度とし、更新をすることが出来る。
継続雇用労働者数	7人
最高年齢者	77歳

2 従業員の年齢構成

(平成28年10月1日現在)

	～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～	合計
正規	男性	9	10	14	8	4	8	6	2	1	0	64
	女性	18	27	17	14	14	15	14	9	0	0	133
	合計	27	37	31	22	18	23	20	11	7	1	0
非正規	男性	1	0	2	3	2	1	1	3	6	10	39
	女性	4	2	11	17	17	33	24	24	24	11	190
	合計	5	2	13	20	19	34	25	26	30	34	229
合計	32	39	44	42	37	57	45	37	37	35	21	426

社会福祉法人 中心会

私達中心会の職員は、「持ち上げ介護」は行っていません。

例えば…



後ろから持ち上げる ↑



前から抱え上げる ↑

これらの介護方法は、関節の痛み、脱臼、皮膚のトラブルなど
利用者の苦痛を伴います。

中心会の職員は、人の自然な動きを重視した介護技術の研修を定期的に行っています。

利用者の身体的な負担はなくなり、結果として介護職員の職業病とも言われる腰痛などもなくなってきました。

中心会は“持ち上げ介護”をしていません

～ そのための介護技術研修を継続して実施しています

ベッドから車いす、車椅子からトイレなどの移乗場面で、アザや皮剥けの原因となる介護技術はどんな方法だったのか、記録から分析しました。今は、「持ち上げ介護をしない」技術を介護職員全員が身につけ、訓練を重ね、正しい技術を定着させようと、継続的に練習を実施しています。研修も定期的を開催しています。



自然な動き

新任職員研修
～基本を学習します



ボディメカニクス

フォローアップ研修

定期的に行っています



課題は個々の職員へ
フィードバック

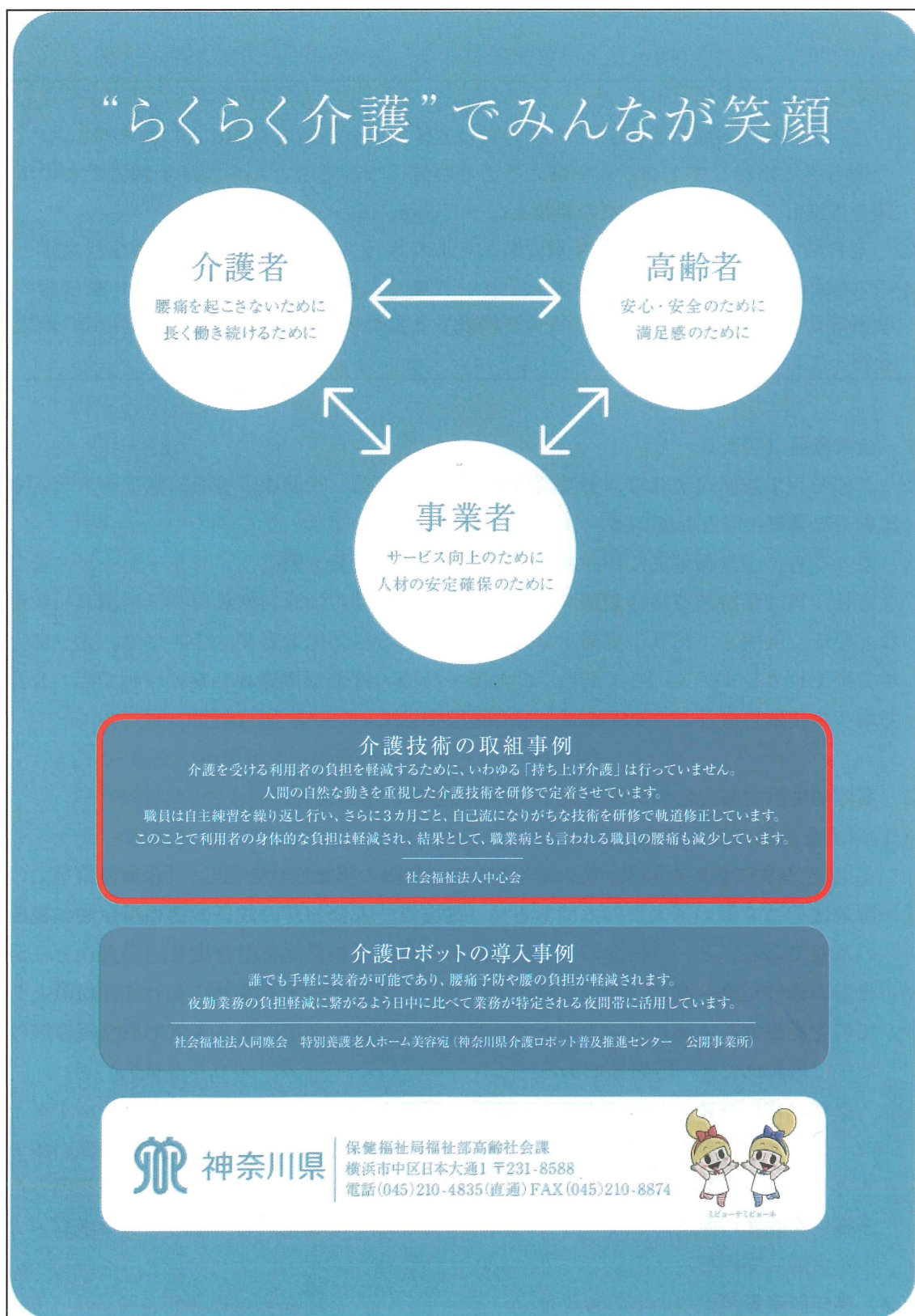
基本を忘れないように…
自己流にならないように
研修で再確認をします



指導者の研修も

定期的を実施！





(出典)「神奈川県らくらく介護宣言」のパンフレット (神奈川県)